



令和7年11月30日
雄飛ヶ丘保育園

早いもので、今年も最後の月となりました。春、夏、秋を子どもたちと過ごし、残りの冬を迎えようとしています。間もなく発表会です。運動会同様、行事は単なるイベントではなく、子どもたちが行事に向けての活動や体験を通して、学び成長していく場であると考え取り組んでいます。どのクラスも、そのクラスらしさが出ていて、同じものを何度も見ても、とても楽しく、その日ごとに変わっていく子どもたちの姿に感動しています。当日は、緊張することもあると思います。一人ひとりが頑張っている姿を、温かい気持ちで見守ってください。そして、エンディングには大きな拍手で子どもたちのこれまでの頑張りを称えてあげて下さい。

友だちとの関わり～1歳児クラスの保育記録より～

「いいよ」

段ボール遊びをした。S君が大きいダンボールを家のようにして遊んでいると、Hちゃんが「Hちゃんもおうちはいりたい」と言った。それを聞いたSくんは別の大きいダンボールを持ってきて、「いいよ」と声をかけてくれた。自分の場所は守りつつ、Hちゃんの思いにも答えてあげようとするS君の気遣いや優しさに心が温かくなった。

「思いをつなぐ」

友だちのしていることに関心を寄せ始め、自ら関わりに行くことが増えてきた子どもたち。戸外で遊んでいたこの日、T君が一人で黙々と遊んでいると、M君がやってきてT君のコップに砂を入れてあげていた。T君の表情を見ると、『これ僕のなのに…』という心の声が聞こえてくるような微妙な表情で、M君が砂を入れることを拒否しそうな雰囲気だった。M君には「M君、お茶を入れてくれたんだね。ありがとう」と声をかけ、T君には「いっぱいになったね。よかったね。」と声をかけた。するとT君の表情が和らぎ、今度はT君がM君の茶碗に砂を入れてあげていた。お返しをしてもらってM君も嬉しそうにしていて、隣に並び一緒に食べたり飲んだりするしぐさをしていた。保育士の仲介がなかつたら、「やめて！」「なんで？」で終わっていたのではないかと思う。思いをつなぐ保育士の言葉の重要性を改めて感じた。

保育士だけでなく、同じ部屋で過ごす友だちに親しみを感じ始めている1歳児クラスの子どもたち。表情や仕草で友だちとコミュニケーションを取ったり、簡単な言葉でのやりとりが聞かれることもあり、とても微笑ましいです。でも、まだまだ自分の気持ちが優先してしまいトラブルは日常茶飯事です。保育園は集団で生活する場。どのクラスの子も、友だちと遊ぶ楽しさを味わいながらも、悔しい、悲しい、腹立たしいという経験をすることもあります。そんな時は一人一人の思いを汲みながら思いをつないでいく保育士の役割が大切になります。いろんな感情を味わい、葛藤しながらも自分の気持ちに折り合いをつける…友だちとの関わりの中で起きた経験が、子どもの育ちにとって意味のある経験となるよう、年齢に合った適切なサポートを行い、より良い人間関係や社会性を育んでいきたいと思います。

